

こどもに一番優しくくださる皆さまへ

新年あけましておめでとうございませう

右巻の年越しは例年と比べ速く逝くことが増えました
皆さまの年越しはいかがでしたか？

この時期いつも思うのは、子どもがゴチゴチと集まって遊ぶ楽しさです

外は寒いのど、家で料理やおやつ作り、こたつに入ってみかん
を食しながらゲームしたりおしゃべりしたり...

とに必ず飛び交う言葉が、ドアを叩く子に

「あ、たか、空気が逃げてるから閉めと〜」

廊下は外と同じくらい気温なのに必死です(笑)

そして給湯器が止まると、食器流しは冷たい水との戦いですが
慣れた子は、水に手を付けずに洗剤を流すのが上手です...

この言葉が正しいかはわかりませんが『たかまぐち春をいま』

フリースクールの子どもは、1家1家を「実家」と言います。学校の休みと

用戸介目が重なると、地域の子とも混ざりグチグチせどあが

こんな「実家」が地域に一つくらいあるのもいいかな〜と思ったり

ただいまーおかえりーの声が聴えると

ほっとする... そんな一年がまた始まりました

今年もよろしくお願ひいたします

代表理事 田中雅子



だんごむし



こども
の
感ばにー

～いつも仲間と一緒にいて、驚くほどココロ丸くなると可愛。だんご虫は、子ども達の大切なお友達～

子どもの可能性を信じ続けたいぞ～

新年あけましておめでとうございます。

師走に暖気が広まり、例年より寒暖差のある年越しとなりましたが、みなさま、楽しいお正月をお過ごしでしょうか？

昨年は、こどばにー10周年ということもあり(1月15日で11年目♪)、これまでを振り返ると同時に、「たっさーんの感謝と共に新たなスタートの年だ～」と、なにかが大きく動き出す予感の一年でした。

子ども家庭庁が新たに誕生し、こども基本法に基づいてこども施策の基本的な方針を定める「こども大綱」が閣議決定するなど、「こどもまんなか社会」の実現に向けて動き出しました。

昨年の秋ごろ、プレーパークで近隣の方から焚火のことで助言をいただいた時に、わこうが子どもたちの意見を聴いたことがありました。

近隣の住民さんの家まで煙が飛んでしまい、迷惑をかけてしまっていること、今後焚火をどうするのがいいか、みんなはどう思うか。すると、まだ利用しはじめて日が浅い一人の子どもが、「どうして子どもの意見を聞くの？」と質問してきました。

「ここはみんなのプレーパークだから、ここを利用してみんなの意見を聴くのが大切なんだ。」

と答えると驚いた表情を浮かべたそうです。

近隣の方の“言い分”に怒る子もいました。

「ここは俺たちの場所なんだから…」と。

私が、そのお家に話しに行くと伝えると「なんで？無駄だよ」という顔で見送っていました。話し終わって帰ると、走って私のところに来て結果を聴いてきたので、「生まれたばかりの赤ちゃんがいて、お部屋の換気をすると煙が入ったり、洗濯したおむつが煙臭くなって困ってるんだって」と伝えました。すると彼は表情が柔らかくなり、「そうか…それはかわいそうだったね」と納得した様子でした。



こたつをウッドデッキに出しておしゃべりする子ども達。おもしろ(笑)

私は、子どもの意見だけが尊重されることを望んでいる訳じゃありません。常々“子ども”“大人”という言葉に違和感があって、(表現しやすいから使ってますが(笑))子どもだから、大人だから…の線引きでなく、一人の『人』として、お互いが自分の意見を伝え、尊重しあうことが『あたり前』なんじゃないかな～今回紹介した2人の子どもそれぞれの反応、どうでしたか？子どもの素直な気持ち…素敵でしょ？今年もこの子どもたちと一緒に、あーだこーだ言いながら過ごそうと思います(笑)

代表理事 田中雅子(通称:ける)

☆認定 NPO 法人こども∞感ばにー(愛称:こどばにー)とは…

2011年の東日本大震災後、宮城県石巻市の地域の大人とともに子どものあそび場づくりをきっかけに活動が始まりました。私たちは“子どもの笑顔が地域のなかで育まれるまちに”を理念に、地域のみならずと一緒にプレーパークやフリースクール事業を行っている団体です。

2024 スタッフからのご挨拶

新年あけましておめでとうございます！2023年は放課後児童クラブの事業も増え、今までよりさらにたくさんの方々に支えていただいた年となりました。
スタッフ一人ひとりの2024年の抱負をご紹介します、新年の挨拶とさせていただきます！

田中雅子(けろ)

統括リーダー



こどばにーの活動はすべて『生きもの』
大切に育て成長を見守っていきます。
新たな命が誕生するよ・かん♥

塩田大介(なおたろう)

児童クラブ担当



面舵いっぱい
ヨーソロー！

千葉拓己(ロッキー)

フリースクール担当



子どもの「やってみたい」をお膳立て
しない大人に俺はなる！（ドンッ）

佐藤和幸(わこう)

プレーパーク担当



今年で6年目。プレーパークを
もっと素敵な場にしていくぞ～！

塩田恵利子(えいっちょ)

移動式プレーパーク担当



今年は、畑を耕し野菜と家族の
健康、世界平和を育みたい！

勝又大海(かっちゃん)

プレーパーク・児童クラブ担当



昨年に引き続き、楽しみながら
プレわたと児クラに入ります！！

菊田元子(もっちゃん)

ブリースクール・児童クラブ担当



今年も子どもたちと元気に笑顔で
過ごしていきたいです！

横山彰子(ふった)

児童クラブ担当



龍のように大らかな人間でいたい。
ところで何回目の年女だっけ？

吉川結衣(ゆいちゃん)

児童クラブ担当



ゆるっと子どもたちの「いま」に
寄り添える余白を持ちたい！

米倉勝巳(よねよね)

児童クラブ担当



児童クラブ二年目、脳みそも身体も
いっぱい汗をかきまくるぞ

立花秀美(たっちゃん)

児童クラブ担当



新年も子どもたちのやりたいことを、
一緒にやれたら良いなあと、思っています。

高梨萌都(もっさん)

児童クラブ担当



遊びを通じた何気ない会話から
可能性を引き出す！

阿部美由貴(みーさん)

事務局



こどばにーの“縁の下の力持ち”に
なるように、今年も頑張ります！

榎谷和子(かづこ)

資金調達担当



こどばにーをどう社会に伝えていくか。
思案の年になりそうですね☺

ほうがー!

児童クラブ

●放課後児童クラブとは
 保護者が就労等により家庭に不在となっている子ども(小1~小6)を対象に、放課後や長期休みに家庭に代わる遊びや生活の場を提供する児童福祉事業で、学校や地域、保護者と連携し家庭の子育てを支援します。

児クラスタッフが大事にしていること

前回の会報誌では「こどぱにーが児クラ運営で大切にしていること」を書かせていただきましたが、今回は代表して3名の児クラスタッフに子どもとかかわるうえで大切にしていることを聞いてみました。

(なおたろう)

4月から放課後児童クラブで働き始めて早8ヶ月。洋服についているビーズがキラキラしている様子に感動したり、スズランテープからわたあめを作ったりと、子どもの感性から日々学ばせてもらっています。約100人の子どもと一緒に過ごす放課後児童クラブ。ケンカが起こることも日常です。そんなとき子どもを叱るのではなく、「なぜ」それをしたのか、「そのとき」どう思っていたのか、「今」どう思っているのかなど、子どもから話を聞くことを大切にしています。

一緒に話をしていく中で、「ごめんね」と仲直りをしたり、「自分は悪くない、もう友達じゃない」と別れ、気づいたらまた一緒に遊んでいる様子を見かけます。子ども同士がぶつかる中で、自分とはちがう考え方に触れ、折り合いをつける力が育つといいなと思います。

(ゆい)



子どもの遊びから、個々の持つ豊かな創造性や無限の可能性にハッとさせられます。

例えばペットボトルを見つけた子どもがそれをキャンバスにお絵描きしたり、水を入れマジックのインクを垂らしてきれいな色水を作ったり。やりたいことを思うままにやってみる、そして今を楽しむことに全エネルギーを注ぐ注いで



いる姿を見ると、大人が忘れてしまった大切なあり方を見せてもらっているようにも感じます。

また、子どもは遊びを通して様々な表情を見せてくれます。時には感情を爆発させるようなことも起きますが、できる限り寄り添い、「子どもの気持ちを尊重し受け止めること」、「子どもが言語化できない部分を感じること」、「一緒に考えて失敗すること」を大事にして関わっていきたいと思っています。

(よねよね)



「ふったあ、ただいまー」と元気な声で始まる一日。児クラに帰ってくるとすぐに宿題をする子、「聞いてよー」とお話をする子、「折り紙教えて!」と遊ぶ子と様々です。時にはジャレてるうちにケンカに発展したりと大変ですが、それも子ども同士の大切な関わりだと必要以上に関わらず、見守ります。

また外遊びが終わる時やお迎えの時には、やり切った顔や足りない顔などたくさんの表情があります。そんな子どもの感情に納得いくまで寄り添い話し合う。

そして、最後には子どもの満面の笑みの「ふったバイバイ」で締める。

最初はニックネームで呼ばれることに戸惑いましたが、そのニックネームのお陰で子どもと近い距離で関わっていると感じます。

これからも子どもと近い距離で寄り添う『ふった』で居たい。

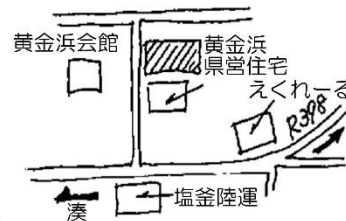
(ふった)



プレわたのな

毎週金曜日 15:00～17:00
毎週土・日曜日 10:00～16:00
所在地:石巻市渡波字黄金浜 157

プレーパークの活動の様子は
こちらから
↓↓↓



op: 食欲わき立つさつまいも掘り!

秋晴れとなった10月のある日に、プレわたで子どもたちとさつまいもを収穫しました。子どもたちは、苗を植えてくれた地域のおばあちゃんからさつまいもを傷つけないシャベルの使い方を教わりながら「この芋何にしようかな～」「私は焼き芋しか頭にないよ」と言いつつ芋を掘りだしていました。

地域のおばあちゃんの「子どもから来年もさつまいも掘りをしたいと言われて嬉しかった。次は苗の植え付けから子ども達とやりたい」と言う言葉を聞いて、農作業って異世代間交流のきっかけになるのだなと感じました。

来年のさつまいも掘りも楽しみです。

(かっちゃん)



op: みんなで作ったこどもの家



ある日の開催中、「雨宿りができる場所を作らない?」という子どもの声をきっかけに秘密基地作りが始まりました。

子どもたちが木材を持ってくる係や板を下で抑える係などの役割を決め、「ここが外れちゃったから直すね」「ここは上手くいった!」と声掛けをしながら製作していました。

できた名前は『こどもの家』、基地作りの中心となっていた6年生の子どもから「ここは協力する力を得られるからいいね」という言葉が出てきたことに驚きました。異年齢の子どもたちが協力しながら何かを作っていく姿をこれからも見守っていきたいです。

(かっちゃん)

最後にやりたいこと

プレわたに3年間来続けた、未就学の男の子Kくん。突然の引っ越しで、石巻を離れることになりました。

そんなKくん「最後に石巻でどんな思い出をつくりたい?」とお母さんが聞くと、「プレーパークでわこうと遊びたい!」と話していたと連絡をくれました。

引っ越しの準備で忙しく、残念ながらプレーパークで会えませんでした。お母さんたち主催のお別れ会で思いっきり遊ぶことができました。

みんなと離れるのが寂しいのかなかなか帰りがらず、最後は手をつないで車まで。「楽しかった?」と聞くと「うん」と楽しさと寂しさがいりまじった声で答えるKくん。

いつでも帰っておいで。いつまでもプレーパークで待ってるよ。

(わこう)



地域で子どもが遊ぶ！

●渡波かたろう会

渡波かたろう会は、「自分たちも楽しみながら渡波をよくしていこう」という思いを持った地域の仲間の集まりです。

🎃 渡波を練り歩け、ハロウィン行進

今年の参加者は大人子ども合わせてなんと 100 名！

渡波かたろう会、お菓子配りのご協力をしてくれた地域の方、中学生ボランティアなど総勢 60 名にお手伝いいただき、地域の 1 大イベントになりました！当日はみんな楽しみだったのか、思い思いの仮装に身を包み、集合時間前にスタート場所に全員集合。ウキウキワクワクな様子で受付をし、中学生にメイクをしてもらっていました。



出発すると目印のあるお家を探し、見つかると「あった！」と目をキラキラさ

せて駆け寄っていき、「トリックオアトリート」の掛け声で地域の方からお菓子をもらう子どもたち。

そんな子どもの様子を見て地域の方も「子どもの元気な姿が見られて嬉しいわ」と笑顔になっていました。



ハロウィンといえばお菓子ですが、中にはタマネギやサツマイモなどお野菜をくれた方もいて、それをもらった子どもたちは「今日の夜ご飯はこれで作ってもらんだ〜」「明日プレわたでハヤシライスつくるから！」とお菓子とは違った嬉しさがあった様子。

協力してくれた方も含めて、みんなが楽しみながら地域全体で開催したハロウィン行進となりましたー！
(わこう)

★ 秋祭り開催！（もはや、初雪祭り！？）

ハロウィン行進から 3 週間後、プレわたで秋祭りを開催しました。

秋祭りなのに、まさかの初雪が降る中での開催となりましたが、子どもたちの熱気と楽しそうな声でそんな寒さはどこへやら。

子ども企画や、お振る舞いの豚汁、子どもや地域の方の出店など様々なイベントが詰め込まれた秋祭りでした！

子ども企画では「地域の方も参加できるように」と、みんなと一緒に楽しめるポッチャ大会が企画され、子どもと地域の方が交流する良い機会に。



また出店では、嬉しいエピソードがありました！

地域のサロンでいつも作品を作っているおばあちゃん。その作品をお店で出してくれました。小学生の女の子がお店に来ると「かわいい〜！」と思わず作品に一目ぼれ！「お気に入りだからすごく大切にすね」と買ったその場で身に付けていました。女の子のすごく嬉しそうな姿を見ておばあちゃんはうれし涙がポロリ。その涙に女の子はビックリして、泣かせてしまったとスタッフに教えてくれました(笑)

子どもと地域の方の間にかげがえのない関わりが生まれた秋祭り。

こうやって子どもと地域が交流できる機会をつくってきたいな。

(わこう)

卍 神社であそぼう、大曲プレーパーク

11月末に東松島市大曲で移動プレーパークを開催しました！
地元の方が一緒にやりたいと声を上げてくれ、企画を開始。地元にある神社やお寺に相談すると、「子どもたちの為に使っていいよ」と快く場所を貸してくださいました。
五十鈴神社はほとんど祭りや地藏盆など、地元の子どもにも馴染みのある場所なので、プレーパークが始まると子どもたちがわらわらと来始めました。初めてやる薪割り・焚き火。神社で遊ぶのも初めてという子どももたくさんいました。
初めはこれやっていいのかな？と少し遠慮がちな子どもたちも、遊んでいくにつれて「私が薪割りたい！」「ソーセージ焼く！」「プレーパークの旗をつくる！」とやってみたい感情がどんどん解放されていき、とても楽しそうな様子でした。
そしてそれを見守るのは地域の大人たち。「こうやって昔みたいに神社に人が集まって村の集会所のような役割を果たせるのはすごく嬉しい」と話してくれた神社運営委員のおじちゃん。「子どもが思いっきり楽しそうに遊ぶためだったらいくらでも協力するよ！」と芋煮やおにぎりをたくさん用意してくれたお寺の奥さん。ほかにも子どものことを大切に思っているたくさんの地域の大人に見守られ、開催したプレーパークとなりました。大曲地区の皆さんありがとうございました！



(わこう)

プレーパーク ひがこ

メラメラと燃える火と子どもたち

12月に入り、石巻もどんどん寒くなってきました。初雪も降り、これからますます寒くなっていくのだろうと感じます。寒いと恋しくなるのは、やはり焚き火。子どもたちもひがこに来ると真っ先に火をつけます。



「俺、焚き火マスターだから！」と薪を割り、火をつけるまで全部一人でやる子もいれば、それぞれで役割分担をして、あーでもない、こうでもない話し合いながらやる子も。火がついた後は、いただいた焼き芋を焼いて食べたり、自分で持ってきたお菓子を焼いたり、ただただ暖まったり。そうやって焚き火を囲みながら放課後の時間を過ごしています。

そんなある日、マッチがなくなり火がつけられなくなりました。どうしようかと話し、子どもが持ってきたのは木の棒と板。「こすり合わせて火をおこす！」と全力でやるけれどもうましくない。それを見ていたほかの子どもが「俺もやる」とかわりがわりにやるが、それももうましくない。そして熱中していたら、あっという間に終わりの時間が来てしまいました。

結局火はつかず焚き火はできませんでしたが、子どもの「やってみたい」気持ちには火がついてメラメラと燃えていた姿が最高にかっこよかった！！がついてメラメラと燃えていた姿が最高にかっこよかった！！

(わこう)

ぼはっく フリースクール ぼはっく

毎週火・木・金曜日
10:00～16:00
当会事務所1階で開催
体験無料
減免制度あり

フリースクールの活動の様子は
こちらから



2代目空飛ぶくじら号お披露目会開催！

クラウドファンディングのご支援で、ついに2代目空飛ぶくじら号を購入しました！
改めて、クラウドファンディングにご協力いただいた支援者のみなさま、本当にありがとうございます！

2代目空飛ぶくじら号のお披露目会では、ぼはっくの子
どもたちが中心に準備から開催までを行いました。

当日まで、皆で記念品のプラバンキーホルダーを作っ
たり、司会を務める子は「人前に出るのは恥ずかしいから、段ボールに入って話したい」と、段ボールの衣装を作ったりと準備を進めていました。

お披露目会では、遠方からミュージシャンの歌ッテルが
渡中学区 WWI メンバー（渡波中学校区を拠点に地域活
動）とコラボしてのライブや、豚汁のお振る舞い、2代目
空飛ぶくじら号にペイントするなど大盛況でした。

準備の時は「本当に間に合うの？」と大人がハラハラ
する時もありましたが、当日はそんな心配はいらないと
思うほど立派に司会も務め、司会以外の子ども役割を全
うしていました。「やりたい」を実現するために行動する
子どもたちの姿に感動！
(もっちゃん)



←『くじら号』だから、
水玉をイメージして
丸を描きました！



テルのライブで→
大盛り上がり！



←本番前の
打ち合わせ



教育長とマブダチになりたい！

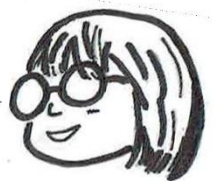
11月下旬、石巻市の教育長がぼはっくに来訪し、子どもたちと座談会を行いました。
教育長が来訪するにあたって、事前に質問や目標を考えた子どもたち。「ぼはっくのスタッフと同じよう
に教育長とも対等に話したい！」という思いから、目標を「教育長とマブダチになる」が
目標になりました！座談会で印象に残った
会話をご紹介します。



穴戸健悦教育長

不登校のことどう思っていますか？

自分の過ごしやすい場所で心のエネルギーを蓄えてほしい！
誰かと繋がっていることが大切！



子どもA

学校に戻ってほしいと思っていますか？

人と話したり、遊んだり、勉強したり…。将来のことを考えてそ
ういうことができるのが大事！学校だけではなく、それぞれの
場所でいろんな意味での“勉強”をしてほしい！



子どもB

教育長は「自分が好きなことに取り組むのが一番」ということを座談会中に何度も伝えて下さり、子
どもたち好きなことを一人ひとり丁寧に聞いていました。その優しい雰囲気にも、子どもたちも安心して会
話をしていました。

ぼはっくが大切にしている「やってみよう」に取り組める環境は、まさに教育長が伝えていたことで
あり、子どもたちの活動が肯定されたように感じます。
(ロッキー)



綺麗な紅葉を求めて

ある日の子ども会議で「紅葉を見に行きたい！」という話が挙がりました。

紅葉が綺麗な場所を調べると栗原市の“花山”が候補に挙がり、学校行事で行ったことのある子どもが「山にも登れるから運動になって良いね！」と話したことで、お出かけすることに決定！

花山に近づくとつれ紅葉が見え始めてテンションが上がる子どもたち！…が、実際に登ってみると、思いの外ガチ登山(笑)

「これ以上登ったら下山の体力がなくなる…」など、自分の体力と相談しながら自分の山頂を決め



て登山を行いました！登り切れた子からは「もっと登りたい」という声も。

登山と紅葉のどっちがメインが分からなくなっちゃったけど、子ども一人ひとりがどちらにメインを置くか決められた活動になりました！（ロッキー）



うほほ〜



学校に行かない・行けない子どもについて、けるがメッセージをお届けするコーナー
そしてここでは、彼らを“ピカリちゃん”と呼びますね。
理由はどんな子どももピカリと輝いているから



子どもの意見を聴くのは…「今でしょ〜♪」

其の8

子どもの権利条約をご存じですか？

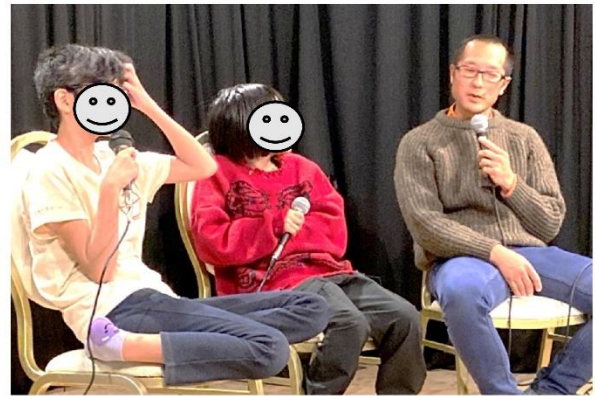
子どもは大人と同様にひとりの人間として様々な権利を認められると同時に、成長の過程での保護や配慮が必要な子どもならではの権利を定めたものです。

子どもは生まれながらに人権(権利)をもっていて、それは義務と引き換えに与えられるものではなく、またなにかをしなないと取り上げられるものではありません(ユニセフ HP より引用)

先日おこなった、みやぎ 6000 人不登校アンケート(詳しくは P10 をご覧ください♪)の質問の「子どもの権利条約を知っていますか？」に対し 50%が「知らない」と回答しました。

子どもの権利には、子どもの最善の利益を第一に考えること、子どもは自分に関係がある事柄について自由に意見を表すことができることがうたわれています。

でも私は、現代社会は子どもの意見を聴き尊重することが優先されていないように感じるし、社会のルールのはほとんどは大人がつくっていますよね。子どもがなにをどのように学びたいか、どんな学



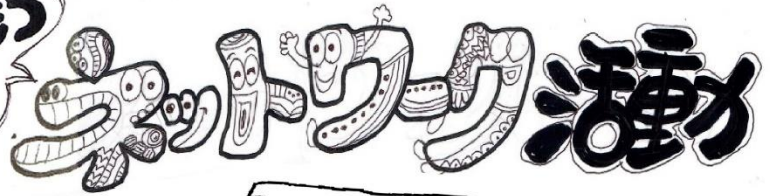
『夢みる小学校』上映会後のトークライブ。
ぼはっくに通う小学生2名が自分の意見を大人に向けて伝えました。

び方が自分の糧になるのか、自分を育てるのが、29万人の『不登校』の子ども(2022 年度文部科学省調査)だけでなく、学びを必要としているすべての子どもの声を聴く時が『今』だと思っています。

子どもは自分で考え決断し、それに責任を持つ力があることを20年以上子どもと関わる中で学ばせてもらっています。子どもの意見をとことん聴いてみませんか？なにが好きでなににワクワクするのか、なにをしている時が楽しいのか苦しいのか、たわいもない会話の中に答えはありますよ♪ (ける)



同じ想いを もつ人たちの



みやぎ 6000 人不登校子どもアンケート

2020年に子どもや保護者からアンケートを取って3年が経ちました。3年前は『4000人アンケート』2000人も増えたのですね

今回は、学校に通っている子どもも対象に声を聴きましたが、結果からわかったことは「本当は学校に行きたくないけど頑張ってる子ども」が216件の回答中31%だったこと。

逆に頑張ってる学校に通っている理由には、行かないと保護者に怒られるからなど自分の意思ではない子どもの声もありました。

もちろん保護者は、我が子を想うからこそ、「行きたくない」と泣いて訴えてきても、心を鬼にして学校に連れて行くと、葛藤の声も聞こえてきます。

このような苦しく辛い声を聞く度に、「何が本当に必要な学びなのだろう」と考えさせられます。

学びとはなんですか？みんな一緒に同じことをや

●多様な学びを共につくる・みやぎネットワーク (愛称:みやネット)

県内のフリースクールや不登校親の会6団体で2019年4月に設立。

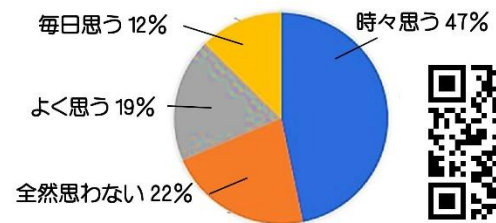
教育機会確保法を基に、多様な学びの環境やその必要性を官民がともに学び、不登校の子どもと親をサポートする仕組みを考える任意団体です。

ることでしょうか？

改めて多くを考えさせられた結果でした。

関心がある人は、323名の子どもや保護者の声にぜひ耳を傾けてみてください (けろ)

「学校に行きたくない」と思ったことがありますか？ の問いへの回答 (6000人アンケートより)



詳しく知りたい方はこちら

●まずは石巻から“不登校”という言葉 をなくすネットワーク (愛称:まーいいね)

「子ども一人ひとりが、自分にあつた学びの場に出会い、安心して暮らせる社会をつくる」を理念に、2021年5月に設立。多様な分野の市民が集って活動しています。

立場を超えてつながろう♪

今年度で3回目となる『不登校』

シンポジウム”を開催します。

2022年度文部科学省による『児童生徒の問題行動・不登校生徒指導上の諸問題に関する調査結果』では、29万人を超える不登校児童生徒のうち、約4割がどの相談機関ともつながっていないことがわかりました。

10月下旬、メンバーみんなでシンポジウムのテーマについて話し合った時、石巻市の『不登校』は400人を超えるから…160人がどこともつながってないの?!とその数字に驚いたことからテーマが決まりました。

今回のテーマは“立場を超えてつながろう”です。

誰にも相談できずに孤立している親子が、ひとりでも、一か所でもいいから、どこかにつながって欲しいと思

います。

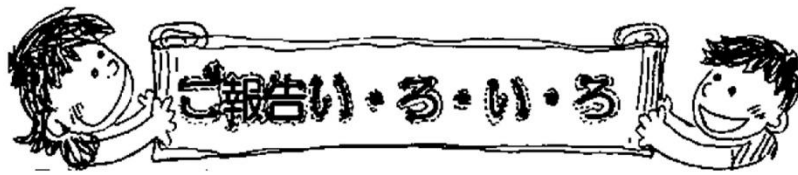
学校、スクールソーシャルワーカー、教育委員会、学びサポートセンター、民間の相談窓口やフリースクール…周りにはたくさんの地域資源があることを伝える場にしたいと思います。

お申込みフォームはP12「事務局からのお知らせ」をご覧ください。 (けろ)



まーいいねのメンバーたち。

私たちが教員、県議、通信制サポート校職員、子ども支援団体職員と立場を超えてつながってるよ～



え？ 無償で土地？

草の根活動で活躍する女性リーダーを讃える賞“チャンピオンオブチェンジ日本大賞(CCJA)”で5名に選ばれ授賞式に行ってきました。他薦のみ200名以上の中から選んでいただいたことにとても驚きです。

なにもないプレーパークを子どもや地域とつくったことから始まり、子どもやスタッフ、地域の人や遠くから支えてくれた人たち…みんながいたから受賞できた…と心から思います。

授賞式の時の質問で「5年後までにやりたいこと」「会場みなさんにお願いしたいこと」を聞かれ『学びの選択肢を増やすために学校をつくりたい。その運営費に2億円が必要なのでご協力お願いします』と答えました。

驚きの笑い？とどよめきが起きましたが、

次の日『登米(石巻の隣の町)なら無償で提供できる土地がある』と連絡が入りました。

それには正直びっくりしましたが、うちの活動ってこうして支えられてるんだなあ。と、周りの人たちに改めて感謝感謝です。

よーし これからもワクワクしながら前に進ませていただきます。みんな～ありがとだ～ (ける)



地元に支えてもらうということ

地元で活動を支えてくださる人たちに東ロータリークラブの皆さんや企業さんがいます。『同じ地域に住む子どもの現状を知ってもらいたい。そして一緒に支えていただきたい』

そう思っているのも、毎年ご支援いただけることに感謝しかありません。“地域の子どもは地域で見守り育てる”この合言葉をいつも胸に、『地域の宝もの』を見守りたいな～ (ける)

LGBT 理解増進セミナーを受講しました！

LGBTQ+についての理解を深めるため、トランスジェンダー当事者の小野寺真さん(にじいろキャンパス共同代表)の講演にこどばに一スタッフが参加しました。

私が一番心に残った言葉は「当事者の子どもに対しては、自分のことをまず大切にすることを教えてあげてほしい。自分らしく居るときに自分らしく在ることを否定されると、こういう風になるとダメなのだと思って気持ちが塞ぎこんでしまう」という発言でした。



この言葉を聞いた時に「私は目の前の子のその子らしさを大切にできていたかな」とこれまでの言動を振り返り、これからはより一層その子のありのままを受け入れる関わりをしていきたいと思いました。(かっちゃん)

事務局からのお知らせ



「みやぎチャレンジプロジェクト」に参加しています



石巻市で唯一の常設プレーパーク
 「プレーパークわたのは」の活動を継続したい！
 ここに来れば誰かが居て、人とつながることができる。そして、自分らしく
 思い切り遊べる居場所の継続のために、皆様のお力をお貸しください！



目標金額：250万円！（期間：12月1日～2月28日）
 ※詳細は同封のチラシを、ご覧ください！
 ご協力をお願いいたします！



プレーパークわたのは
 詳細はこちら
 →→→



クレジット寄付
 はこちら
 →→→



第3回「不登校」シンポジウム開催のご案内



今年のシンポジウムのテーマは“立場を超えてつながろう”
 当事者の子どもも保護者も、教職員も行政機関の人も同じ
 テーブルで話ができる場があったらいいな～
 ご参加お待ちしております♡



第2回不登校シンポジウムの様子

【開催日時】2024年2月4日(日) 13:00～16:00
 【場所】石巻市支え合いセンター3階 ささえあいホール
 【対象】行政職員・教職員・NPO等不登校に
 関心のある方
 【定員】100名程度(先着順)



お申込みはこちら→→→



年末年始のお休みのお知らせ



いつも、温かいご支援・ご協力ありがとうございます。
 当会では下記日程を年末年始休業とさせていただきます。
 12月29日(金)～1月7日(日)
 年始は、1月8日(土)より活動いたします。



※1月7日(日)は、「プレーパークわたのは」のみ開催いたします。

<p>こどばにー通信「だん子むし」発行元</p> <p>認定 NPO 法人 こどばにー <small>むしむし</small></p> <p>宮城県石巻市鹿妻南 2-1-7 Mail: info@codopany.org Tel: 070-2436-8517 (事務局) HP: https://codopany.org/</p>	<p>◎継続サポーターのお願い</p> <p>こどばにーの活動をみなさまのお力で 支えてください。</p> <p>サポート金額は月額 300 円から♡ 子どもが第三の大人とつながり、安心 して過ごせるセイフティネットの場づく りにご協力ください。</p> <p>詳しくはこちら → </p>	<p>◎活動報告の配信</p> <p>☆こどばにーのこといろいろ (けるの独り言も配信)</p> <p>●Facebook ●Instagram</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> </div> <p style="text-align: right;">「いいね」してね♡ </p>
---	---	--